

公表

事業所における自己評価結果_放課後等デイサービス

事業所名	インクルー那珂教室		公表日 令和 8 年 3 月 25 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分に広いスペースが確保されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		その日の利用児童の状態に合わせて個別に職員を配置している。	配置基準は足りているが、もっと職員数が欲しいときもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		バリアフリー化や絵や文字を使って子どもに分かりやすい工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃、遊具の消毒を行っている。昼食やおやつ前のテーブルの消毒、定期的な車内の消毒を行っている。	今後も継続していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや個別療育をするスペースが確保されている。	必要に応じて環境整備を行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		職員同士でお互いの業務について確認、振り返り等を行っている。	今後も継続し、職員の資質向上につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	今回行ったので、業務改善につなげていく。	定期的に評価を行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	日々の支援会議や申し送りにて情報共有を行っている。	今後も継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		第三者評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月の運動研修やe-ラーニングを用いた研修を受けることができる。	外部での研修があると、より療育についての視野や知識を広げることができるのではないかとと思う。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		適切な支援プログラムの作成に努めている。	今後も定期的に見直しや変更を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		新規利用時や状況が変わった時など、朝の申し送り時やミーティングなどにおいて共有している。	定期的にアセスメントを行い、職員全員が共有できるようにしていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		アセスメント会議や個別支援会議を定期的に行っている。	今後も継続していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画はどの職員でも確認できるようになっている。支援が始まる前にその日の療育内容について共有している。	今後も継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			アセスメントは行っているが、標準化されたツールが何か分からないため、早急に確認していくこととする。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者様からの聞き取りをもとに計画を作成している。	今後も継続していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月案をもとにそれぞれの職員が考え、皆で意見を出しながらその日の活動プログラムを構成している。	より良い支援が提供できるよう、今後も継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		メインで療育を行う職員が一週間ごとに変わるため、それぞれの職員の持ち味が出た支援になっている。	より良い支援が提供できるよう、今後も継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		毎日の療育が運動を行う集団療育と個々の課題を行う個別療育の時間に分かれている。	療育の内容が充実したものとなるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前にその日の内容や送迎、担当を確認している。	今後も継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	サービス提供記録の記入しながら、それぞれの職員が気になったこと等を話し合うようにしている。	今後も継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		サービス提供記録を毎日記入、確認し、必要に応じて話し合いを設けている。	今後も継続し、より良い支援につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングの時期になってきているので、見直しを行っている。	今後も定期的な見直しを続けていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	5		子どもの状態に合わせて複数組み合わせ、支援を行っている。	行っているが、地域交流の機会の提供が弱い。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		子どもたちに選択してもらう機会を設け、時には職員とともに考えながら自分の考えが言えるよう支援している。	自信を持って自己決定ができるように支援していく。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	2	会議とまではいかないが、情報共有の場を設けてもらい、管理者、児発管が参加している。	機会があれば参加させていただく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要時に各関係機関と連絡を取り合っている。	協力医療機関はあるが、その他の連携はあまりないと感じるため、積極的に関わりを持つようにしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		利用開始前に学校と連絡を取り、挨拶と送迎時の確認、情報共有の仕方の確認を行っている。	送迎時や電話連絡等、今後も必要に応じて情報共有を行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	必要に応じて行っている。	今後は積極的に行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			卒業した子どもがまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		機会があれば受けてみたい。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		今後、保護者様から要望等あれば機会を作っていく。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		5		今後、機会があれば参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		5	送迎時にその日の様子や最近の状況等情報交換をしている。	今後も送迎時や電話連絡、面談等の機会を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		2	3	研修等あれば保護者様に情報提供していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		5	契約時に行っている。	今後も継続していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		5	契約時にお子様やご家族の意向を確認し、個別支援計画書に反映させている。	今後も継続し、より良い支援につなげていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		5	利用開始日前に計画について説明し、同意を得ている。	今後も継続、定期的に意向の確認を行っている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		5	送迎時や電話等で必要に応じて保護者様と話をしている。	保護者様のご要望に適切に対応できるようにしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		5	年1回保護者会を行っていく予定。来られない保護者様への情報提供も行っている。	保護者会を行ったが参加者がおらず、保護者同士の交流の場にはならなかった。交流を求める保護者もいないように感じる。要望があればきょうだいで参加できるイベント等計画、実施していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		5	苦情処理に関する体制は整備されている。	苦情が出た場合には適切に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		5	ブログやSNSを活用している。また、行事予定等の情報はアプリを活用している。	今後も継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		5	職員それぞれが十分に留意している。	今後も継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		5	文字の大きさや表記の仕方、イラストなどを用いて配慮している。	今後も継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		今後、検討や企画をしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		5	契約時にしおりで配布している。避難訓練を実施している。	定期的に周知できる機会を作るようにしていく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		5		BCPは策定されている。避難訓練は行っているが、その他の訓練はまだ行うことができていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		5	契約時に確認している。	今後も契約時にしっかりと確認し、対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5		アレルギーのある子どもがいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		5	安全計画を作成し、計画をもとに点検等を行っている。	今後も安全管理をきちんと行い、支援していく。

応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5		今後、周知できるようにしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		他教室のヒヤリハットも共有、検討できるようにしている。	今後も継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		外部の虐待防止の研修に参加し、資料や動画を全職員で共有している。	定期的に行うようにしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		契約時に説明している。	今後も丁寧に説明していく。

事業所名	インクルー那珂教室		公表日 令和 8 年 3 月 25 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分に広いスペースが確保されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		その日の利用児童の状態に合わせて個別に職員を配置している。	配置基準は足りているが、もっと職員数が欲しいときもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		バリアフリー化や絵や文字を使って子どもに分かりやすいよう工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃、遊具の消毒を行っている。昼食やおやつ前のテーブルの消毒、定期的な車内の消毒を行っている。	今後も継続していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや個別療育をするスペースが確保されている。	必要に応じて環境整備を行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		職員同士でお互いの業務について確認、振り返り等行っている。	今後も継続し、職員の資質向上につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	今回行ったので、業務改善につなげていく。	定期的に評価を行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	日々の支援会議や申し送りにて情報共有を行っている。	今後も継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		第三者評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月の運動研修やe-ラーニングを用いた研修を受けることができる。	外部での研修があると、より療育についての視野や知識を広げることができるのではないかとと思う。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		適切な支援プログラムの作成に努めている。	今後も定期的に見直しや変更を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		新規利用時や状況が変わった時など、朝の申し送り時やミーティングなどにおいて共有している。	定期的にあセスメントを行い、職員全員が共有できるようにしていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		アセスメント会議や個別支援会議を定期的に行っている。	今後も継続していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画はどの職員でも確認できるようになっている。支援が始まる前にその日の療育内容について共有している。	今後も継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			アセスメントは行っているが、標準化されたツールが何か分からないため、早急に確認していくこととする。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者様からの聞き取りをもとに計画を作成している。	今後も継続していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月案をもとにそれぞれの職員が考え、皆で意見を出しながらその日の活動プログラムを構成している。	より良い支援が提供できるよう、今後も継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		メインで療育を行う職員が一週間ごとに変わるため、それぞれの職員の持ち味が出た支援になっている。	より良い支援が提供できるよう、今後も継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		毎日の療育が運動を行う集団療育と個々の課題を行う個別療育の時間に分かれている。	療育の内容が充実したものとなるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前にその日の内容や送迎、担当を確認している。	今後も継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	サービス提供記録の記入しながら、それぞれの職員が気になったこと等を話し合うようにしている。	今後も継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		サービス提供記録を毎日記入、確認し、必要に応じて話し合いを設けている。	今後も継続し、より良い支援につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングの時期になってきているので、見直しを行っている。	今後も定期的な見直しを続けていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	会議とまではいかないが、情報共有の場を設けてもらい、管理者、児発管が参加している。	機会があれば参加させていただく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要時に各関係機関と連絡を取り合っている。	協力医療機関はあるが、その他の連携はあまりないように感じるため、積極的に関わりを持つようにしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	利用開始前に連絡を取り、挨拶と送迎時の確認、情報共有の仕方の確認を行っている。	送迎時や電話連絡等、今後も必要に応じて情報共有を行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		これから行っていく予定である。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		5		機会があれば受けてみたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		今後、保護者様から要望等あれば機会を作っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		サービス提供記録や送迎時、電話等で情報共有を行っている。	今後も保護者様との情報共有の機会を大切に、必要に応じて面談等の機会を設けていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		研修等あれば保護者様に情報提供していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に行っている。	今後も継続していく。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		契約時にお子様やご家族の意向を確認し、個別支援計画書に反映させている。	今後も継続し、より良い支援につなげていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		利用開始日前に計画について説明し、同意を得ている。	今後も継続、定期的に意向の確認を行っている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		送迎時や電話等で必要に応じて保護者様と話をしている。	保護者様のご要望に適切に対応できるようにしていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	年1回保護者会を行っていく予定。来られない保護者様への情報提供も行っている。	保護者会を行ったが参加者がおらず、保護者同士の交流の場にはならなかった。交流を求める保護者もいないように感じる。要望があればきょうだいで参加できるイベント等計画、実施していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情処理に関する体制は整備されている。適宜、相談や申し入れに対応している。	今後も苦情等が出た場合には適切に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ブログやSNSを活用している。また、行事予定等の情報はアプリを活用している。	今後も継続していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		職員それぞれが十分に留意している。	今後も継続していく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		文字の大きさや表記の仕方、イラストなどを用いて配慮している。	今後も継続していく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1		今後、検討や企画をしていく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等とともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約時にしおりで配布している。避難訓練を実施している。	定期的に周知できる機会を作るようにしていく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			BCPは策定されている。避難訓練は行っているが、その他の訓練はまだ行うことができていない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時に確認している。	今後も契約時にしっかりと確認し、対応していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3		アレルギーのある子どもがいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、計画をもとに点検等を行っている。	今後も安全管理をきちんと行い、支援していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		今後、周知できるようにしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		他教室のヒヤリハットも共有、検討できるようにしている。	今後も継続していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		外部の虐待防止の研修に参加し、資料や動画を全職員で共有している。	定期的に行うようにしていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		契約時に説明している。	今後も丁寧に説明していく。	

事業所名		インクルー那珂教室		公表日 令和 8 年 3 月 25 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。		○	子どもの発達段階や課題によりあった教具・教材を選定し、目的に応じて使い分けられるように見直しが必要	他教室間で共有し、より実践的な教具・教材を使用していく
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用希望者数に応じて職員配置を調整し、無理のない支援体制を整えている。	冬季など、季節やタイミングによって欠員が出た場合の対応は常に念頭に置いておく必要がある。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		目標設定や振り返りを職員間で共有し、業務改善に向けた意見交換を行っている。	継続的に情報共有等により参画する環境へと意図して行く必要がある
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を活用し、寄せられた意見を支援内容に反映している。	周知するのだけでなく全職員が共通認識で対応していく必要がある
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員から意見を出しやすい環境を整え、業務改善に活かしている。	従業員の意見をしっかりと受け取れる環境を整えていく必要がある。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価を導入し、客観的な視点からの評価を業務改善につなげる必要がある。	定期的な評価を受けとり、改善のための話し合いの機会を設けるとよい。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や法人研修への参加機会を確保し、職員の専門性向上を図っている。	随時必要な研修を追加しより盤石な体制を心掛けていきたい。
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを丁寧に行い、子どもと保護者のニーズを踏まえた支援計画を作成している。	アセスメントを取る際のコミュニケーションをより深めていき、常に寄り添える環境作りを目指したい。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関わる職員間で情報共有を行い、子どもの最善の利益を考慮した検討をしている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		訪問先施設と連携し、担任等の意向を支援計画に反映している。	日程調整が難しい時期の訪問先行事等を把握する。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、計画に基づいた支援を行っている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行動観察等を通して、子どもの適応行動を多面的に把握している。	日々の療育においても職員間の共有などによってより深くバランスのとれた視点で行う。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを踏まえ、具体的にわかりやすい支援内容を設定している。	事業の頻度が上がった際にも多角的な具体性のある内容を意図していく。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を共有し、日々の支援に配慮していく。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に必ず打ち合わせを行い、役割分担を明確にして支援を行っている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りを行い、気づきを次回支援に活かしている。	今後、事業頻度が増した際にもしっかりと共有の機会を確保するよう努める。	

関係機関や保護者との連携	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		訪問先施設の理念や支援方法を尊重し、連携を大切にしている。	支援において一方的な見方にならないよう訪問先の理念や支援方法に寄り添った支援を意図していく。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		日々の支援について具体的な記録を残し、支援の検証・修正・改善等へ繋げていく。	職員間での共有等、視点を変えた検証、改善にも心掛ける。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、必要に応じて支援計画を見直している。	保護者や訪問先の意向をしっかりと受け取れるよう関係を密にして意見をくみ取っていく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議が行われる際は参画している。	職員間の共有により人員的にもゆとりある参画を目指す。
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携し、地域全体で支援できる体制を整えている。	様々な家庭環境の事例を扱うため、どの機関と連携を深めていくべきかを予め調べて周知しておくことが大切。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就園・就学時に情報共有を行い、切れ目のない支援に繋げている。	情報共有、相互理解を深めていけるような環境も整えていく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修への参加機会を増やし、支援の質の向上を図る必要がある。	定期的な外部研修、専門機関からの助言を受けられるよう体制を整えていく。
保護者等への説明等	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域の協議会等へ参加し、地域連携や情報共有を深める必要がある。	各地域との連携を深め、参画する場を把握しておく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日常的に保護者と情報共有を行い、子どもの状況について共通理解を図っている。	事業所側が伝える一方にならないよう配慮して情報共有し、寄り添い、ヒアリングするよう意図する。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援プログラムや研修情報の提供など、家族支援が充実するように努めたい。	必要なサポートができるよう日頃から視野を拡げて研修機会を検討する。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規定や利用者負担について、丁寧に説明している。	利用者の心的な負担にも配慮し丁寧に説明する。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		訪問先施設に対し、事業の趣旨や目的を分かりやすく説明している。	周知されていない地域においては、他地域で行っている実績等を伝え理解を得ていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者の意向を確認し、意思を尊重した計画を作成している。	「子どもの最善の利益」の優先考慮の観点を訪問先、保護者とも共通認識の上で進めていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		計画内容を説明し、保護者の同意を得た上で支援を行っている。	支援内容の説明を丁寧にやっていく。
31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談に応じ、必要な助言や支援を行っている。	保護者がより話しやすい関係性を築いていく。	
32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会づくりを検討する必要がある。	保護者同士の交流の機会もさらに検討していく。	
33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談対応の体制を整え、迅速な対応を心がけている。	日々の業務を効率的に行い、ゆとりをもって対応できる体制を心掛ける。	
34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等を活用し、情報発信を行っている。	今後ともより一層理解を深めていけるよう発信をしていく。	

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理を徹底し、職員間で注意喚起を行っている。	全職員共通認識で情報の扱いを留意していく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思疎通や情報伝達に配慮し、分かりやすい対応を行っている。	どのような状況の保護者であっても配慮を欠かすことなく支援を行う。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		訪問支援以外の相談にも対応できる体制を整えている。	信頼を得る活動を通して、様々なケースでの対応など求めに応じて必要な対応ができるよう日々研鑽を深める。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		支援後に訪問先と電話等の連絡を取り合い振り返りを行っている。	支援後に行う一連の流れをしっかりと身に付けていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		支援内容を保護者へ丁寧に共有している。	記録や日々の交流において小まめな情報共有をしていく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについて、十分に留意している。	情報の取り扱いにおいては、全職員にしっかりと周知していく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っている。	適切な助言、支援ができるよう常に寄り添って支援していく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し職員へ周知している。	定期的にマニュアルの読み返し等を行う。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、研修や訓練を実施している。	研修報告等でしっかりと確認、管理していく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、再発防止に努めている。	ヒヤリハットの結果のみにフォーカスせず、代替案の提示、改善策に焦点を合わせていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を実施し、意識向上を図っている。	以後も定期的に機会を確保していく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する方針を明確にし、事前説明と計画への記載を行っている。	細かいシチュエーションを事例として差し出しながらしっかりと確認を取っていく。